

いるからです。

◇ 今後のこと

関係機関（建設省、環境庁、東京都、流域自治体）への陳情、署名運動、東京都議会への請願、自然保護条例への提言、対話集会、自然環境調査、資料作成、宣伝啓発活動、自然保護の学習、住民運動との連携等、考えられるほとんどのことをこれまでの三年間にやって来たし現在も引続き行っている。私たちにあって、この運動が早期に終わりを告げるといふ見通しはまったくありません。長期戦の覚悟はできています。一代で定めなら、二代でも、三代でも……。なぜなら、破壊者は法の網をくぐりぬけ、いつ、どこから、どのような形であらわれかわからないからです。

最近の、日本列島改造論による自然保護運動への巻き返し戦術は、市民の良識をあきらめへと指向させ、破壊の論理を平然と横行させる心理作戦まで駆使して……。とここまで書いてみて、やはり、自然保護運動とは、そんな抗争的な雰囲気の中で肩をいからして行なわれるものであつてはならないと反省するのである。

すべての人間が、科学の方で立証された真実をみつめて、人間らしい心で冷静に考えて、私たちの国土、いや私たちの地球を守るために、ひとつになつて、やさしい人間らしい心で自然を守る日を夢みつつ、私たちは楽しく愉快に、あせらずにこの運動を続けたいと思つていきます。

（多摩川の自然を守る会々員）